

海底の溶岩

岩石名

枕状溶岩 Pillow lava
(まくらじょうようがん)

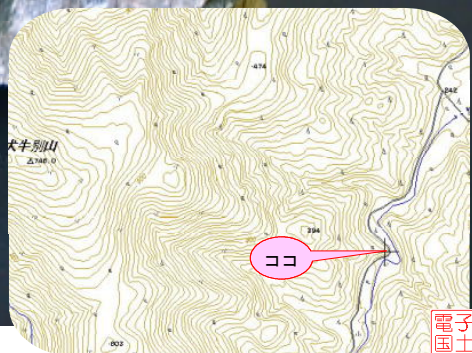
時代 中生代白亜紀

地質区分 幌加内オフィオライト、イドンナップ帯など

産出地 士別市温根別五線川、剣淵町六線など



剣淵町六線の風化した枕状溶岩



解説

海底の溶岩

この標本は、士別市温根別五線川の幌加内オフィオライトの枕状溶岩 (pillow lava) です。枕状溶岩とは、海底火山の噴火などで水中に熱いドロドロとした「ゆるい」溶岩がチューブ状に流れだし、硬い「表皮」をつくってから、内部の熱い溶岩がその表皮を突き破って流れ出して、それらが多数重なってできるものです。その断面が丸い枕が重なっているように見えるため、枕状溶岩 (Pillow: 枕、Lava: 溶岩) と呼ばれています。

中央海嶺では次々と枕状溶岩が生み出され、それが海底の岩盤 (海洋地殻) となっていくます。つまり、海底は枕状溶岩だらけなのです。



士別市温根別五線川の枕状溶岩

溶岩には普通、多量のガス成分が含まれ、噴出の際にはそれが発泡したり、溶岩を吹き飛ば

したりしてしまいがちですが、深海底では圧力が高く、そのようなことが起こらないため、深海底の枕状溶岩は発泡の痕が少ないです。



和寒町東和の枕状溶岩

剣淵町や和寒町のイドンナップ帯では、このような深海底の発泡のない枕状溶岩と、浅い海底の発泡した枕状溶岩が混在しています。このことは、イドンナップ帯の地質は、海底火山が海洋プレートとともに移動して、海溝付近でグシャッと押しつけられて形成されたメランジであるということの根拠となっています。

調べてみよう

- 緑色岩の露頭で、丸い形の部分を探してみよう。